

会社概要

(2023年9月30日現在)

会社の概要

社名	株式会社 ヤギ
英文社名	YAGI & CO.,LTD.
創業	1893年(明治26年)10月16日
設立	1918年(大正7年)4月28日
資本金	1,088,000,000円
主な事業内容	綿化繊維、合繊糸、綿化繊維物、合繊織物、ニット生地及び衣料品等の各種繊維二次製品の国内販売ならびに輸出入
主要な事業所	(国内) 大阪本社 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号 東京本社 東京都中央区日本橋小網町18番15号 支店 福井(福井市) 出張所 名古屋(名古屋市) 営業所 和歌山(和歌山市) (海外) 駐在員事務所 上海(中国) ホーチミン(ベトナム) ハノイ(ベトナム) ダッカ(バングラデシュ)

役員一覧 (2023年9月30日現在)

代表取締役 社長執行役員	八木 隆夫
取締役 常務執行役員	山岡 一朗
取締役 上席執行役員	濱田 哲也
取締役 上席執行役員	八木 靖之
取締役	玉巻 裕章
取締役 (常勤監査等委員)	山本 浩志
取締役 (監査等委員)	池田 佳史
取締役 (監査等委員)	熊谷 弘
取締役 (監査等委員)	小山 茂和

(注) 取締役玉巻裕章、池田佳史、熊谷弘及び小山茂和は、社外取締役であります。

(注) 本報告書中の記載金額及び株式数は表示単位未満の端数を切り捨てております。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日までの1年

定時株主総会の基準日 3月31日

剰余金の配当の基準日 期末配当 3月31日
中間配当を行うときは9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

公告の方法 電子公告とし、当社ウェブサイトに掲載いたします。なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
ウェブサイト
<https://www.yaginet.co.jp/ir/announce.html>

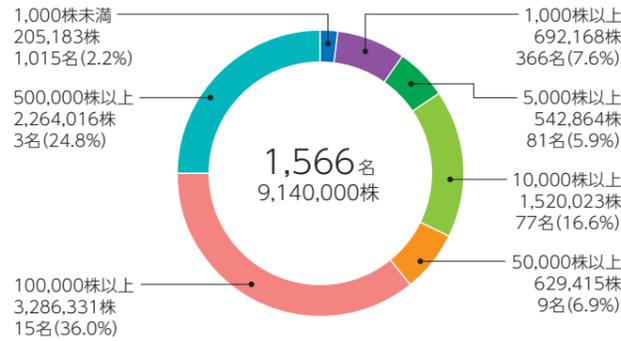
株式の情報

(2023年9月30日現在)

発行可能株式総数	45,568,000株	
発行済株式の総数	9,140,000株	
株主数	1,566名	
大株主(上位10名)		
株主名	持株数	持株比率
ヤギ共栄会	982(千株)	11.52(%)
ノムラピーピーノミニーズティーケーワンリミテッド	666	7.82
株式会社みずほ銀行	410	4.82
株式会社三井住友銀行	380	4.46
立花証券株式会社	311	3.65
株式会社三菱UFJ銀行	305	3.58
ヤギ従業員持株会	266	3.13
第一生命保険株式会社	250	2.93
八木 隆夫	240	2.82
クロスプラス株式会社	237	2.78

(注) 持株比率は自己株式(615,016株)を控除して計算しております。

所有株数別分布状況



【住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について】

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

【未払配当金の支払いについて】

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

この先の未来も、人と社会に寄り添い続ける。



130TH
SINCE 1893

株式会社ヤギは
創業130周年を迎えました

130年前、
私たちヤギは綿糸商として誕生しました。

「終始一誠意」を社是として、
社員一人ひとりが一貫して
誠実にものごと向き合うことで、
たくさん信頼を得てきました。

そんな私たちだからこそ
変革の時代といわれる今日、
次の社会のためにできることは何か。

これまでの常識にとらわれない、
新しい価値の創造とグローバルな挑戦をし、
「繊維」の可能性を追求し続けます。

=YAGI=

Heritage to the future

証券コード：7460

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、おかげさまで本年10月16日に、1893年(明治26年)の創業から130周年を迎えました。これまで当社ならびに当社グループを支えていただいたステークホルダーの皆様へ深く感謝すると同時に、持続可能な社会の実現に向けた決意を新たに、ビジネスを展開してまいります。

1893年に綿糸商として創業し、以来社是である「終始一誠意」の精神を守りながら時代と社会の変化に機敏に対応し、現在はマテリアルから、ライフスタイル、アパレル、ブランド・リテール領域に至るまで、繊維を中心にしながら多岐にわたるビジネスを展開しています。

社会とヤギグループの持続的成長の基盤をさらに強固にすべく、2026年3月期を最終年度とする中期経営計画2026「Heritage to the future」を策定し、初年度の取り組みを進めています。

さて、当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、円安の進行、物価上昇に資源価格の高騰などの影響を引き続き受けることとなりました。このような状況においても、コスト削減を強化しつつ、差別化商材の販売拡大やグループ経営体制の高度化等を推進することにより、増収増益とすることができました。

通期につきましては厳しい経営環境が続きますが、引き続き中期経営計画の基本戦略に取り組むことで、アパレル事業、ブランド・リテール事業を中心として堅調な業績が見込まれることから、当連結会計年度の通期業績予想を修正いたしました。また、通期配当予想につきましても10円増配し58円といたしました。

今後におきましても、当社がこの130年間で築き上げてきた信用と実績をさらに高めていくために、グループ内外のネットワークを結集し、新たな価値の創造と企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年11月

代表取締役
社長執行役員 八木隆夫

配当について

配当につきましては、長期的な視野で安定した利益還元と、経営基盤の強化に必要な内部留保をバランスよく行っていくことを基本方針としています。当基本方針に基づき、当期末配当金は1株につき58円を予定しております。

第2四半期財務ハイライト(連結)

詳しくは当社ウェブサイトをご覧ください
<https://www.yaginet.co.jp/ir/>

ヤギIR

検索



売上高



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



セグメント別の概況

マテリアル事業

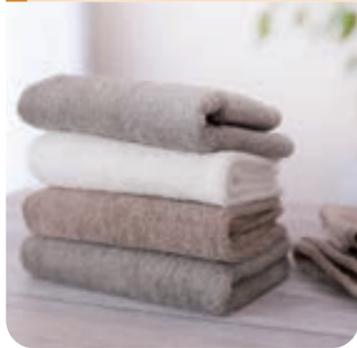


合成繊維は、インテリア関係や、円安の影響を受けて衛材関係や中東向けの生地輸出は比較的堅調に推移しましたが、コスト上昇分の価格への転嫁が思うように進みませんでした。天然繊維は、販売先である産地の冷え込みにより苦戦を強いられ、比較的健闘していたオーガニック糸も動きが鈍化しつつあり、新規商材を投入するために開発、試作、販促を行いました。ニット生地に関しては、春夏製品向け現物販売は猛暑の影響で堅調に推移しましたが、秋冬製品向けは逆にその影響を大きく受け苦戦を強いられました。この結果、売上高は12,645百万円(前年同期比8.6%減)、セグメント利益(経常利益)は119百万円(前年同期比74.0%減)となりました。

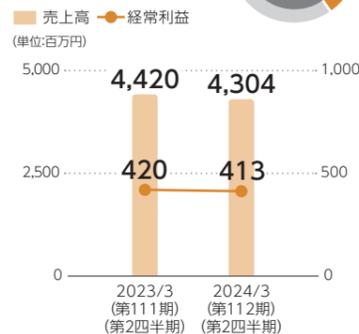


30%

ライフスタイル事業



生活資材を主に扱うライフスタイル事業のうち、ダストコントロール等の衛生関連商材については、コロナの影響による衛生意識の高まりで販売は堅調に推移していましたが、コロナへの脅威が薄まることで上期はやや低下傾向となりました。一方、化粧雑貨についてはインバウンド需要の回復もあり堅調に推移しました。また、タオル等の生活雑貨やスポーツ関連商材は当社製品が市場で評価され堅調に推移しました。この結果、売上高は4,304百万円(前年同期比2.6%減)、セグメント利益(経常利益)は413百万円(前年同期比1.7%減)となりました。



10%

アパレル事業



コロナ禍の影響が徐々に収まり、消費意欲が回復するとともにインバウンド需要も戻りつつあります。このような状況のもと、種々要因によるコスト上昇に加え一部で人手不足により人件費を上げざるを得ない状況にあり、アパレル・小売り等の川下では、販売価格を上げる風潮にあります。当事業が関わる川上、川中段階もその影響を受け一部の卸売価格が上昇し、さらに不採算事業の見直し、経費の圧縮、商圏の洗い直しを行うことで一定の効果を得ることができました。なお、猛暑・残暑の影響で春夏物は好調に推移したものの、秋冬物の立ち上がりに苦戦しており、今後予断を許さぬ状況にあります。この結果、売上高は22,774百万円(前年同期比5.8%増)、セグメント利益(経常利益)は1,563百万円(前年同期比66.1%増)となりました。



54%

ブランド・リテール事業



主力のダウンジャケットは端境期とは言え、秋冬物の立ち上がりとして動き出す節目にあります。今年は猛暑・残暑の影響でずれ込む状況となりました。但し、夏物アイテムの扱いを増やし新規事業に参入することで増収増益基調となりました。この結果、売上高は1,988百万円(前年同期比14.8%増)、セグメント損失(経常損失)は595百万円(前年同期は1,045百万円のセグメント損失)となりました。



5%

(※売上高構成比はこの他に、不動産事業1%があります。)

TOPICS

オーガニックコットンのトレーサビリティを明確にする独自のシステム「Cotton iD」をスタート

当社グループ会社の山弥織物、世界最大級のオーガニックコットン紡績企業であるインドのNahar社との長年にわたる協力関係のもと、農場から糸までを国際認証に紐付け、一貫したオーガニックコットンのトレーサビリティを管理する当社独自の仕組み「Cotton iD」の運用を開始いたしました。

このシステムにより、当社の取り扱いオーガニックコットン糸の85%以上で農場～糸まで、極めて透明性の高いトレーサビリティが実現可能となり、当社から該当するオーガニックコットンを購入いただく際、この管理の証明を付けることが可能です。

また、当社の展開するオーガニックコットンの糸・生地・製品のトータルブランド「UNITO organic」では、このシステムによりトレーサビリティが確保された商品の流通が既に始まっています。



株式会社WINWIN YJVが運営するNike Rise コンセプトストア「NIKE KYOTO」がオープン

当社が韓国のスポーツアパレル小売企業であるWINWIN SPORTS社と共同出資して設立した株式会社 WINWIN YJVが運営するNIKE Riseのコンセプトストア「NIKE KYOTO」が、昨年12月に神戸市にオープンした「Nike Well Collective」の関西1号店「Nike Well Collective Kobe」に続き、本年7月にオープンいたしました。

「NIKE KYOTO」では、京都でスポーツを楽しむ全ての人々が気軽に立ち寄れる店舗として、新商品の展開や地域とストアがつながるコミュニティ活動を通して、お客様のニーズに合わせたサービスを提供しています。



従業員向けインセンティブ・プラン(RS信託)導入の開始

本年5月より、当社グループの従業員を対象としたインセンティブ・プランの導入を開始いたしました。本制度の導入により、従業員は当社株式の株価上昇による経済的な利益を享受できるようになり、さらに、当社株式に譲渡制限を付すことにより、株式交付後においても企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えることが可能となりました。

当社グループの従業員に対する福利厚生制度を拡充させるとともに、従業員の帰属意識を醸成し経営参画意識を持たせ、さらに当社業績や株価上昇への意識を高めることにより、当社の中長期的な企業価値向上を図ることを目指します。

TATRAS社が株式会社WEAVAに商号変更

当社のグループ会社であるTATRAS INTERNATIONAL株式会社が本年9月、商号を「株式会社WEAVA(ウィーバ)」へ変更いたしました。

「WEAVA」には、お客様との絆や国内外の様々な協力パートナーとのコラボレーション、伝統と革新といった要素など、様々なものを「織り成す」ことによって企業として発展するという想いと、従業員全員が自主的に個々の経験と能力を發揮し、商品や売り方などアパレルビジネスの新しい未来を「作り出していく」ことに向けた想いが込められています。

今後、WEAVA社は、新社名と共に多角的なブランド展開を実現し、全従業員のアイデンティティに刻まれている情熱を以て革新のプロジェクトを生み出し届けていく企業へ飛躍していきます。

※「TATRAS」を始めとするブランド及び商標、店舗名に変更はございません。



WEBサイト <https://weava.co.jp>

八木香港が「インターテキスタイル上海 アパレルファブリックス 秋」に出展

当社の香港法人、YAGI & CO.,(H.K.) LTD.は、本年8月に、中国・上海で開かれるテキスタイルを中心とした見本市「インターテキスタイル上海 アパレルファブリックス秋」に4年ぶりに出展いたしました。YAGI & CO.,(H.K.) LTD.では、裁断くずを使ったリサイクルコットン糸の「リサイカラ」を展開しており、パートナー工場の原料調達力を組み合わせ、欧米ブランドを主なターゲットとして展開しています。

今回の展示会では、この「リサイカラ」と、リサイカラの生産から織布、編立、縫製までをお客様が自らのサプライチェーンの中で完結することが可能な仕組み、「クローズドループ・リサイクル」の強みを提案しました。

